

令和 元年 8 月 2 日

東員町議会 総務建設常任委員会

委員長 大 谷 勝 治 様

東員町議会総務建設常任委員会

委員長 大 谷 勝 治

委員会研修報告書

研修期間	令和元年 7 月 22 日 (月) ～ 7 月 23 日 (火) 【 2 日間】
研修（視察）先	益 城 町 役 場 熊 本 市 役 所
目的（テーマ等）	災害によるライフラインの復旧について 水源かん養地対策についての取り組み
資料添付の有無	有 ・ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。



〔委員氏名：大 谷 勝 治 〕

研修概要、内容、所感

7月22日（月）研修1日目益城町の災害によるライフラインの復旧については、前夜の突然の降雨によって、研修は余儀なく中止となった。

7月23日（火）研修2日目熊本市の水源かん養地対策についての取り組みについての研修

・74万人都市熊本市は**水道水源を100%天然地下水**でまかなう、**日本一の地下水都市**であり**かん養林対策**について平成20年第10回「日本水大賞」グランプリ平成25年国連「生命の水」最優秀賞受賞都市のです。東員町も同様に**水道水源を100%地下水**に依存する町であり、かん養地の先進対策研修を行い、安定した、かん養地対策に資するため又今回は熊本震災から3年3か月が経ち、震災を受けたかん養地の状況も併せて伺います。

市勢概要

市政（平成31.4.1現在）

市政施工年月日：明治22年4月1日

人口：738,063人 世帯数：324,676世帯 面積：390.32km²

都市宣言 地下水保全都市宣言に関する決議 昭和51年3月22日（1976）

一般会計 平成31年度3千7百2億円

産業別就業人口（平成27年国調）第3次産業構成比75.6%

議員数 48人（現員数：令和元年5月1日現在）

・環境水道常任委員会 議員数 8人

[委員氏名：大 谷 勝 治]

熊本市役所研修 9:30~11:00

研修各講師

熊本市議会事務局

・調査課 下錦田 英夫 課長

熊本市環境局 環境推進部 水保全課

・水質保全班 緒續 美智子 主幹兼主査

・普及啓発班 首藤 美佐 主任主査

・水量保全班 大津山 幸祐 主査

研修 PowerPoint によるプレゼンテーションを主とした、質疑応答。

始めに、白川水源：かん養地の多くは白川中流域などの水田や畑地等でかん養された水（肥後熊本藩初代藩主、加藤清正によって干拓され現在に至っている）これらの地域の地下には巨大な地下プールがあり水はけの良い砥川溶岩の地層を通り熊本市民 74 万人の水道水源となって市内 21 か所の水源地から供給されている。その最大の水源「建軍水源地 11 本の井戸のうち 7 本が自噴」**水量 6 万 m^3/D** この水源地だけで市民 25 万人以上を養うことができます。現代昭和 51 年、水源地近くの高層住宅団地建設計画がきっかけとなって、地下水への関心が高まり、地下水保全都市宣言が決議その翌年、熊本市地下水保全条例を制定、その後平成 19 年、水質と水量の保全と節水社会の形成を図る改正をおこない総合的な条例となった。

主な質問等

・かん養林の保全以外の取り組みについて、水道局と水保全課との協議。

〔委員氏名：大 谷 勝 治〕

・水源かん養地保全、市民への啓もうについて、近隣市町との連帯は 11 市町村公益財団法人くまもと地下水財団設立（地下水基金・保全対策・保全活用協議会）

・水守の活動について（雨水活用・ガイド・節水・PR・料理人・湧水・かん養・案内・水源の森・バーテン）それぞれが協力情報発信・共有など人材の発掘育成。

・水田を利用した、かん養地保全対策としての取り組み、農家との話し合い問題点などについて
事業としては地元推進組織：水循環型営農推進協議会があり、熊本市と地元農家が協力出来る体制をとっている。転作田の湛水助成事業最大 10 a 22,000 円／湛水 3 か月。

・地下水利用に関して、これまでに水道水に変化を生じた事例について

一時的な地下水の変化については地震発生時色や濁りが生じたが発生から 2 週間後水質基準内に回復しました水量についても水位の上昇、低下が見られたが数週間後には元の水位に戻った

・水質について 長期的には、硝酸態窒素が上昇傾向にある基準の 10 倍のところもあり原因は過剰施肥・家畜排せつ物不適切処理などが考えられる。2019 年度たい肥センター供用開始。

水位の傾向把握のために 53 か所に観測井戸を設置。取水量が低下する原因はかん養地域等の都市化、井戸の劣化があげられる。今年度から井戸リニューアルプランを策定・推進していく。

・汚染された地下水の浄化の手立て、硝酸性窒素濃度上昇の原因と対策、水量の確保については令和 6 年に不足する水量の目標設定を行い、解決をして行くとのことでした。様々なことが有りそれでも、安全で美味しい水を、途切れる事無く供給して行くことがライフラインの宿命であり手厚い保護が必要です。その他雨水浸透枳設置対策について補助が受けられます。

以上